

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	石井 美紀代	職名	准教授	学位	修士 (看護学) 大分医科大学 2001 年
----	--------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅ケア、訪問看護

研 究 課 題
医療・介護の一体化改革によって、医療機関の受け皿を在宅医療・在宅看護に期待されている。また、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおいて看護職に求められるニーズおよび協働・連携について研究する。

担 当 授 業 科 目
社会保障概説 (看護学科 1 年 後期) 保健医療福祉行政論 (看護学科 2 年 再履修者) 家族と健康 (看護学科 2 年 前期) 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ (看護学科 2 年 後期) 看護研究の基礎 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学演習 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学実習 (看護学科 3 年後期・4 年前期) 看護総合演習 (看護学科 4 年 通年) 看護総合実習 (看護学科 4 年 通年) 看護学 (栄養学科 3 年 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【社会保障概説】 講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の 4 本柱を、社会福祉士の外部講師と分担して実施した。1 年生後期の科目であるため、はじめに、看護職がなぜ社会保障を学習するのか？を説明した。 各制度を解説していくと、「わからない」を連発する学生が多く、すぐに学習するのをあきらめてしまう。そのため、簡単な事例をあげて学生に問い、生活上の身近なものとして感じてもらう工夫をした。また、練習問題をつくり、講義内で繰り返し解説した。 この科目は、覚えることが基本であるため、必ず、自分でまとめるように、テストは自分で作成した資料を持ち込み可とした。最初は、漠然と「難しい」「わからない」と言っていたが、資料作成を始めたころから、講義後に残って質問しに来る学生が増えたことから、有効な方法であったと考える。
授業科目名【家族と健康】 新カリキュラムで創設された科目である。家族看護学を基盤に、社会学や心理学で「家族」をどう捉えているかを解説した。学生は、家族も看護の援助対象であることを認識しているが、どう援助していくかを考える最初の科目であることから、小児の例、生活習慣病の例、高齢者介護の例、をそれぞれ違う理論やモデルを使って事例検討していった。それにより、年の離れた兄弟姉妹の事、祖父母の介護に家族で取り組んでいる事、医療職・介護職の親から聞いている事、などと結び付けて考える学生も多くなった。 一方、学生の中には、複雑な家族関係や家族への負の感情を持っている場合がある。そのため、なるべく学生のプライバシーに触れず、「家族」を客観的に見られるような題材、資料、演習を行った。また、授業期間内に気になる学生は、学生総合支援室のカウンセラー、キャンパス・ソーシャルワーカーに相談しながら進めていった。

授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ】

本授業は、保健師課程の必修、看護師課程の選択授業であるが、保健師選抜が2年後期終了後であることから、受講生は保健師を目指す者と選択科目の単位をとるために受講した者があった。そのため、病院での看護とは違う「公衆衛生の視点」を身につけることを目標として、教科書とオリジナルの授業プリントで特徴を解説した。さらに、保健師ジャーナルから公衆衛生分野で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは専門雑誌のため、学生が読み解くのは難しい。読み解くポイントや活動の企画・運営から評価に至るプロセスを解説して読ませると、学生は、専門雑誌の記事であっても取り組んでくれた。

授業科目名【看護研究の基礎】

教員5名がオムニバスで実施した。半分を講義、半分をグループワークで構成し、研究計画書の作成から簡単な調査研究もしくはインタビューを実施し、それらを整理して抄録を作成、発表する一連の作業を体験させた。講義が半分、グループワークが半分で進めた。3年前期は、各看護学の演習科目が重なる時期であり、どの科目もグループワークが多い。この科目は学生の優先順位では低いことから、積極的な取り組みになりにくかった。指導者として「このテーマでは研究にならない」「目的と方法が一致できていない」ことを気づかせようとするが、学生にそのことを理解させるのが難しく、修正を面倒がるため、指導に苦慮した。

授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】

学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。最初の授業で、在宅ケアが必要とされる社会背景を解説し、「継続療養が必要な人のQOLの視点で考える」をテーマに、制度、家族、医療ケア児についての調べ学習をした。その後、医療や介護を社会のありようにつなげて講義していく内容につなげて考えてもらいたかったが、意図が伝わらない学生もあった。看護過程の演習にあたっては、最初に知識確認の口頭試問を実施した。これは、目的を明確にしたことで積極的に取り組み、好成績であった。看護過程ではアセスメントを重視したが、リスクや観察事項は計画に記載できても、実際に問題があった場合の対処まで考えさせることができなかつたことから、他の科目と連動しながら在宅看護の特性を学ばせる工夫の必要性を感じた。

授業科目名【在宅看護学実習】

在宅看護実習は、学生と看護師が1対1で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、指導看護師と事前に実習目標や進め方の打ち合わせを重視した。また、学生にとって、1対1の同行訪問がストレスフルであり、気後れして看護師と会話も質問も出来ないことが多い。指導看護師にこのことを理解してもらい、場づくりを重視した。

訪問看護は、1人の看護師が1日4～6件訪問をするが、学生は複数の患者を同時に考えることができないため、実習では同伴訪問1日1～3件に絞って考えさせた。さらに、教員が学生の思考を方向づけながらすすめた。

一方で、直接学生の指導をするのは、助手と臨床系非常勤助手であるため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や助手の自己研鑽の機会につながった。

授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

本授業は、卒業研究に代わるものである。そのため、これまでの臨床実習から学生自らテーマを選択し、文献検索から実習での介入計画を立案し、論文としてまとめさせた。

看護総合演習では、段取りする力、資料化する力、わかりやすい発表の工夫につながることを期待し、前半は毎週1回、テーマに沿った内容を調べ、プレゼンテーションをさせて行った。研究計画書の段階からは個人ワークとしたが、個人の力量と取り組み意欲の差によって、作業進行の速度に差があった。できるだけ主体性に任せたかったが、期限を細かく区切って、教員から学生に連絡をとり個別指導していくしかなく、総仕上げの科目として不安が残った。

授業科目名【看護学(栄養学科)】

受講者3名に対し、在宅看護学、公衆衛生看護学を担当した。それぞれの特性と簡単な事例を解説し、その後はディスカッションをしていったが、学生は意欲的な学びをしてくれた。

事例は、必ず栄養指導が必要な状況をつくり、看護師と栄養士がどう役割分担し、どう連携していくか、を念頭に置いて投げかけた。また、栄養指導でも使える、看護学で使う理論や行動科学のモデルを紹介し、事例の状況を学問的に捉えることを心がけた。在宅看護学、公衆衛生看護学は、統合科目であることから、期間の最後に講義したことが理解しやすかつたのではないかと感じた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～ (現在に至る)
日本地域看護学会		1997年10月～ (現在に至る)
日本看護学教育学会		1998年4月～ (現在に至る)
日本公衆衛生学会		1998年4月～ (現在に至る)
日本老年社会科学会		1999年4月～ (現在に至る)
日本学校保健学会		1999年4月～ (現在に至る)
日本老年看護学会		1999年8月～ (現在に至る)
日本看護研究学会		2001年11月～ (現在に至る)
日本在宅ケア学会		2004年8月～ (現在に至る)

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) 慢性疾患をもつ高齢者の退院調整にかかわる職種が感じる困難感	共著	2020.3	西南女学院大学紀要 Vol.24	① 退院調整にかかわる3職種(病院の退院調整専門職、介護支援専門員、訪問看護師)を対象に、慢性疾患をもつ高齢者が病院から在宅に退院する場合の調整にある困難感について聞き取り調査をした。その困難感と背景にあるものをまとめた。 ② 共著者：水原美地、石井美紀代、鹿毛美香 ③ (p35～p45)
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2021年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

[大学委員会] 図書委員 [学科役割] 国家試験対策担当 カリキュラム検討（オブザーバー）
